

## 生活支援コーディネーターによる取組

### 1 ごみ出し困難高齢者に対する社会福祉法人等によるごみ出し支援について

#### (1) 取組の概要

生活支援コーディネーターの役割の一つとして、地域に不足するサービスの創出や住民ニーズや取組のマッチングがある。高齢者が、住み慣れた地域での生活を維持するために身体的機能の低下などの理由で、集積所までごみを出すことが困難な高齢者に対して地域の障がい施設と連携して、障がい施設が高齢者自宅から集積所までのごみ出し支援を行っている。本事業では、介護保険制度によらない互助を基本とした地域での助け合いの取組を推進している。

#### (2) 高齢者ごみ出し支援に関する協力法人等について

令和5年度から、有限会社大裕、合同会社ゆめぶらす、NPO 法人ドリームが増え、現在9法人等から高齢者ごみ捨て支援に関する協力を得ている。

(現在の協力法人等)

- 社会福祉法人ぶさん会    ○社会福祉法人東幸会    ○社会福祉法人サポートセンター虹  
 ○社会福祉法人俊公会    ○合同会社ふれ愛プラザあおば    ○NPO 法人ハッピーエンジェル  
 ○有限会社大裕    ○合同会社ゆめぶらす    ○NPO 法人ドリーム 以上9法人等

#### (3) 取組の効果

- 介護保険制度によらない社会資源の開発
- 障がい者への就労機会の確保
- 社会福祉法人による地域における社会貢献

#### (4) 実施までの流れ

- ① 相談を受けたら市高齢福祉課 生活支援体制整備事業担当者まで連絡
- ② 市から障がい施設へ連絡
- ③ 高齢者、障がい施設、高齢者支援センター、ケアマネジャー、高齢福祉課等の関係機関との打合せ
  - ・ ごみの捨て方の確認  
→障がい施設が、毎週○曜日の○時に高齢者宅へ訪問し、可燃ごみ・不燃ごみ・資源ごみを回収して捨てるなど
  - ・ 料金の支払いの確認  
→当月分を月末に締め、請求書を高齢者へ翌月○日までに渡し、○日までに施設へ○○の方法により支払うなど
  - ・ 開始日の確認
  - ・ 高齢者の相談先の確認  
→ごみ出しについての相談先は○○など
- ④ 請負契約書を2部作成（必要な場合）と取り交わし（障がい施設と高齢者が保管）
- ⑤ ごみ出し支援実施

#### (5) 今後の取組

高齢者支援センターに配置している第2層生活支援コーディネーターと情報共有しながら身体機能の低下や早朝などでヘルパーが対応できないなどの理由で、ごみ出しが困難な高齢者に対してこの取組を推進していく。

## 2 住民主体の健康づくりに向けた作業療法士会和大学との連携及び通いの場の普及について

### (1) 取組の概要

社会福祉法人青い海の会が運営する小規模多機能型居宅介護事業所「南浜の家くじら」において開催している「くじらの会」を通じて地域住民の健康づくりに対する意識の醸成を図るとともに専門職である作業療法士と同じ地区にある八戸学院大学の学生ボランティア等と地域住民の交流の機会を創出する。

### (2) 「くじらの会」の活動内容

地域に住む一人暮らし高齢者に集まってもらい、食事や歌や話や踊ったりできたらどんなに楽しいだろうという法人理事長の考えから「南浜の家くじら」が開設当初から月に1回集まり令和6年1月28日までに「くじらの会」の活動は116回目を迎えている。また、同法人の保育園に通う子どもたちも高齢者との交流を行っている。今後の「くじらの会」としての希望とすれば、月に1回「くじらの会」を開催するだけでなく、地域の高齢者の話や悩みを相談する機会や、好きな時にお茶を飲んだり集まったりできる環境を作りたいとのことであった。

### (3) 高齢者支援センター瑞光園における取組について

高齢者支援センター瑞光園が、「南浜の家くじら」の運営推進会議や「くじらの会」に参加するなど日頃から良い関係をつくっている。「くじらの会」の参加者から開催回数を増やしてほしい声が出ていることから、月1回開催している「くじらの会」の他にも同法人が所有している「青い海の家」を活用し、週に1回開催など開催頻度の高い気軽に高齢者が集まることができる通いの場を開催することに向けて企画の段階から高齢者支援センター瑞光園は、「くじらの会」と作業療法士会等と連携し、地域ケア圏域会議で検討するなど開催に向けて準備を進めている。

### (4) 今後の取組

令和6年1月28日（日）10時から13時まで「くじらの会」による健康教室として「のぼそう！健康寿命」のテーマで開催した。法人が運営する保育園の卒園児や同じ地区にある八戸学院大学の学生、地域の高齢者の合計52人が集まった。

（活動内容については、チラシを参照）

また、健康教室開催後に関係者間で振り返りを行い、「青い海の家」を有効活用した通いの場の立ち上げに向け話し合った。今回の取組を通じて、作業療法士会や八戸学院大学の学生ボランティアと連携することができた。法人理事長の「青い海の家」を地域住民に活用して欲しいという思いと、おしゃべりやお茶を飲むなど気軽に楽しめる場所が欲しいという高齢者のニーズがマッチングできるように関係者間で連携して進めていく。

### (5) 1/28 開催「健康教室」の様子



作業療法士による健康講話



健康測定の様子



海がみえる「青い海の家」

(血圧・握力・棒反射・立ち上がり)

